

《今朝の聖書から》

ヨハネ福音書20:31には“これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである”と、この書物の目的が記され、一旦終えられています。ヨハネにとって21章は、どうしても追加して伝えたいことなのです。15節以降は、イエス様による、ヨハネに対する直接的で個人的な召命の記録になっています。しかしこの召命は、信仰者すべてに当てはまることでもありますし、信仰者のすべてが経験したことでもあります。“ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか”と三度もイエス様に質問されたペテロは、極度に緊張していたと思います。それだけの理由があったのです。すこし前に、ペテロはイエス様のことを三度も“あの人のことは知らない”といったばかりだったからです。17節をみましょう。“ペテロは「わたしを愛するか」とイエスが三度も言われたので、心をいためてイエスに言った、「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。」とあります。イエス様の間に対する、応答になっています。これに対して“イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい。」”という、教会建設の担い手に与えなければならない言葉が返されています。この召命の記録は必要だったのです。続いてイエス様は“死に方”という言葉を使って、彼の栄光の表わし方を示されます(19節)。この節にはまた“わたしに従ってきなさい”という言葉が、皆が知っている言葉の様にはありますが、とても重要な言葉として記されている事に気付くでしょう。何故重要なのでしょうか。難しいからです。その難しさの中身が18節にあります。私たちは、若いとき“私はキリストを信ずる”と決意し、教会生活を始めます。それは“私の決意”であり、少々のことです。失うことはないのだ、とも思います。奉仕にも励み、学びもします。ところが、年をとってからは、そうではない場合があります。体は、自分の思いに反して弱くなり、礼拝を守ることさえ、若い時には考えもしなかった理由で出来なくなり、信仰を持って生活することが苦痛にさえ思える事もあります。救われた確信が、疑問に変わることもあります。皆、肉体的には弱くなり、衰えますが、イエス様は、最後まで信仰を持っていることの大切さを、あらためて、担い手である信徒に、衰えた時のための備えとして、ここで語られるのです。

週報

2007年 9月 30日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸